

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290200169		
法人名	株式会社 アトラス		
事業所名	グループホーム たんぼぼ		
所在地	千葉県千葉市花見川区朝日が丘3丁目2-61		
自己評価作成日	平成25年3月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一昨年に閑静な住宅街に開設しました。朝日ヶ丘つくし自治会に入会し地域との連携をしています。ホームの特色としては浴室は外の景色が一望でき、歩行に不安がある方にも安心して入浴を楽しんでいただけるようリフト浴を設置しています。食事に於いては旬の食材を購入し、米は産地直送の物を使用し入居者様と職員が共同で盛り付けを楽しんでいます。残された力が発揮できる機会を作り、継続していきける支援に努めています。施設入所が必要になった場合、系列施設と連携しニーズに合わせた柔軟な相談、支援ができる体制も取っています。訪問診療等や医療機関との綿密な連絡をとり重度化しないようにしています。職員は認知症介護に、理解と思いやりを持って日々楽しく入居者様と生活している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は3階建ての建物で、1階はデイサービス、2~3階が「グループホームたんぼぼ」となっている。併設のデイサービスとは、合同行事やカラオケルーム・機械浴槽の使用等、密な連携を図っており、入居者の生活の活性化及びニーズに合わせた柔軟な支援に繋がっている。また、理念に「交流」を掲げ、地域行事への参加・施設行事への招待・運営推進会等、地域との交流が様々な形で行われており、地域に根差した施設運営に努めている。食事と入浴の楽しみを重視し、入居者の希望に合わせた食事提供・行事食や外食会の実施等を工夫すると共に、開放的な造りの浴室でゆったりと入浴を楽しめるよう支援しており、その人らしい生活に配慮した取り組みを行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成26年3月22日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一同いつも目につく場所に「基本理念」を掲示している。職員会議等の際、「基本理念」掲げることが実践されているか確認しサービスの向上に心がけている。	「笑顔」「安心」「交流」を施設理念として掲げている。理念を事業所内に掲示すると共に、パンフレットや規定に明記し、職員・外部の人々への周知を図っている。また、研修や会議の中で、理念の確認を行っており、職員全員で理念を共有できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会で行われる、草取り、掃除等に参加したり、夏祭りには入居者全員が参加し地域との交流を図っている。	「交流」と言う理念のもと、地域との交流を重視し、日頃から地域住民と挨拶を交わすと共に、地域行事への参加や施設行事への招待等、様々な方法で地域との交流の機会を設けている。また、グループ法人や地域の他施設との交流行事も行われており、入居者の楽しみに繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後、運営推進会議等で地域の方々にグループホーム、認知症の人の理解をしていただけるよう取り組む。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にはあんしんケアセンター、民生委員、近隣のケアマネ、家族の参加をして頂きホームの現状報告、意見交換をしている。(議事録があります。)	運営推進会議は、年2~3回開催しており、自治会役員・地域包括支援センター職員・民生委員・法人職員等が出席している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行い、施設理解の促進及びサービスの質の向上に繋がっている。また、認知症に関する研修を実施し、認知症への理解を深める工夫も行っている。	運営推進会議の開催数・議題等を工夫して頂き、地域との関係強化・施設理解の促進に向け、取り組みを強化していくツールとして活用して頂く事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム協会を通じ市町村との連携を図っている。千葉市高齢施設課主催の研修は積極的に参加している。	日頃から市に対して、業務における相談や報告等を随時行い、連携を図っている。また、グループホーム協会の役員を務めており、会議を通じて市と意見・情報交換をし、問題や困難事例の解決に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の講習を受け、受講した者がホーム内研修をし皆と身体拘束をしないためにはどうしたらよいか話し合う。現在身体拘束をしている人はいない	身体拘束排除における研修に参加していると共に、研修内容の報告・マニュアルの整備等を通じて、全職員へ意義の理解を促進している。身体拘束排除に向けた施設方針を明文化し、書類の整備も行っており、適切な対応が可能となっている。困難事例においては、家族と相談の上、入居者の安全面・自由な生活に配慮しながら適切な方法を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に虐待について、職員間で話題にしている。管理者から見て虐待に繋がらないよう注意喚起している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は大体のことは理解している。また成年後見を利用している方もいるので、電話・来訪時に近況報告を管理者、ケアマネが行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に家族(キーパーソン)と直接面接を行い、疑問等には説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者・家族等が意見、要望が言い易いようにしている。苦情窓口を設置している。	家族の面会時や電話連絡時に直接意見・要望等を確認している。また、運営推進会議等を通じて、外部からの意見も確認している。挙げた意見・要望等においては、申し送り・連絡ノート・会議等を活用して、周知・検討を図り、適切な改善に繋げている。定期的に施設新聞「たんぽぽ通信」を発行すると共に、家族を施設行事に招待し、理解を促し、意見・要望の言いやすい関係作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議を設け意見を聞く場所を設けている。	定期的に会議を開催すると共に、連絡ノートを活用し、職員の意見・提案等を確認している。また、施設長や管理者が個別に意見・思い等を確認する等の配慮もしている。希望休暇の取得・年数に合わせた研修の実施等、職場環境の整備及びスキルアップのシステム構築にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務の希望を取り入れ、働きやすい環境に勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間予定を立て内部研修を行う。外部研修の参加を積極的に行っている。研修内容の共有と資格取得の推進をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市グループホーム協会に加入し、協会が主催する研修に参加して交流を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員が入居者情報を閲覧し、本人が安心できるよう話題づくりやチームで関り信頼関係づくりに勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に十分話を聞く。(家族の不安、要望)入居後もいつでも相談ができるよう家族の思いに寄り添うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人グループで高齢者福祉施設等があることを説明し、多様な選択肢があることを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の個々の今の状況、思いを汲み取り今何をすべきか、何を支え安心して生活できるかを考えながら、共に生活する者として関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	私達は家族の代わりにはなれても、本当の家族にはなれない事を家族に話すことにより、本人の真なる思いを伝え、ホームで本人が暮らすことで良い距離感を生み良い関係作りができるよう、イベント等来訪の機会をつくり、色々な相談を家族といている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出・外泊・電話や手紙等いつでもできるよう対応している。家族の了解を受け、知人や古い友人と出かけられるよう支援している。	友人・知人の訪問や家族との外出・外泊は自由となっていると共に、手紙や電話等を支援し、馴染みの関係継続に配慮している。また、町内からの入居者もあり、地域の社会資源活用が馴染みの場での楽しみとなっている。その他にも、地域行事への参加や地域住民との交流が新しい関係の構築に繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同で行う家事(食事の盛り付け、洗濯物たたみ等)は職員が声かけし共にできるよう支援している。入居者間で症状について中傷的な発言が聞かれた場合、説明して理解して頂く事でその人を支えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅復帰された方がホームに遊びに来られている。退居後ご家族からの相談にもっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人に担当職員をつけユニット会議内でカンファレンスを行っている。困難な場合であっても本人の立場になり検討している。	契約時に面談にて、本人・家族の意向・身体状況・生活歴等を確認していると共に、医師や他サービス事業所から情報提供を受けている。また、日々の記録・連絡ノート・会議等を通じて、入居者の変化や日々の生活状況等の情報交換をし、常に新しい情報を職員間で共有できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から聞いたり、聞き取りが難しい場合は家族から情報を得て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送り、介護記録、健康チェック表等で共有している。		

【千葉県】グループホーム たんぽぽ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議、カンファレンスを行いケアプランへ反映させている。状況に応じ変更している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人介護記録・健康チェック表に日々記録し職員間で共有している。職員から上がった気づき変化により計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人グループで協力体制があるため柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花の美術館や近隣を散歩しながら季節のお花を見たり、ベランダにプランターを置きお花を育てたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診の継続、協力病院の訪問診療と本人・家族と話し合い自由に選択していただいている。緊急時には家族の承諾のもと協力病院に受診できるようにしている。	希望のかかりつけ医への受診・内科医の往診等を実施しており、適切な医療支援を行っていると共に、必要に応じて、併設デイサービスの看護師と相談する事も可能であり、適切な健康管理を行っている。緊急時には、対応方法をマニュアル化している他、協力病院と連携を図り、適切な対応が取れるよう協力体制を構築している。その他にも、訪問リハビリ・訪問マッサージ等が実施されており、残存機能の維持・向上にも繋がっている。	

【千葉県】グループホーム たんぽぽ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームでは、看護師の配置がないため協力病院、かかりつけ医の医師、看護師、との連携を密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後も安心して過ごせるよう、主治医・看護師と話し合い家族とも連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	最期まで見て欲しいと家族の要望がある。その際は、ホームでできる事と出来ない事を十分説明し、家族の納得を得て主治医と連携し対応している。現在1名介護が重度化している方がいるが、様々な取り組みを行い生活をしている。	施設での方針や対応方法を契約時に説明し、家族の了承を得ている。必要時には、家族の意向を確認していると共に、グループ法人の特別養護老人ホームや老人保健施設とも連携を図り、医療機関や他施設への切り替えも含め、家族の意向に沿った支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルが作成されており、職員会議でも確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災通報システムを設置しており、災害マニュアルを作成している。ホーム内では防災訓練をおこなっている。	スプリンクラー・非常階段・自動通報機・火災報知機等の消防設備を設置していると共に、年2回の避難訓練を実施している。訓練では、非常階段からの避難・夜間想定等の訓練を行い、避難方法の確認を行っている。また、毎日、施設内の火元点検を行う等、火災の予防にも努めている。運営推進会議を活用して、地域との防災訓練計画を検討する等、地域との協力体制の構築にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者、一人ひとりの人格を尊重した言葉かけに注意を払っている。人格を損なう声かけがあれば職員に対し注意している。個室であるため訪室時には許可を得て訪室している。また排泄時には特に注意を払っている。	プライバシー保護におけるマニュアルの整備・研修の実施を通じて、職員へ意義の理解を促進している。また、「笑顔」を理念に掲げ、入居者の尊厳に配慮し、その人らしい生活が送れるよう支援方法を検討している。接遇においては、基準を明確にし、言葉遣いや支援方法を会議・申し送り時に都度、指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者と職員が話す機会を多く持ち「何をしたいのか？どうしたいのか？」を話せる。また自己決定、選択がしやすい状況をつくるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて支援している。集団行動をする場面であっても強制せず状況に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベント時には化粧・正装して参加されている方が数名います。その他の方は本人と相談しながらコーディネートし参加していただいている。日々においてもその方らしい身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを聞き、嫌いなものに対しては代替りの物を提供し食事を楽しい物にできるようにしている。入居者の希望にそった食事の提供ができるようにしている。職員と共に食事の盛り付け、食器拭き等の手伝いができる方にはできるよう支援している。	入居者の希望に応じて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。調理担当職員を配置し、入居者の希望を確認しながら、献立を作成している。食事の楽しみを重視し、外食会・行事食の内容を充実させると共に、日頃の食事でも食器や盛り付けを工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量、水分量をチェックし記録している。摂取量が少ない場合は工夫している。また嚥下状態により、食事形態を変える工夫をしている。(刻み、ミキサー、トロミ使用)		

【千葉県】グループホーム たんぽぽ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアの促し、介助をし清潔保持に努めている。就寝時には義歯をポリドントにつけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行いパターン、シグナル把握に努めている。	入居者一人ひとりの排泄状況を記録し、排泄パターンや状況判断により、適切な声掛け・トイレ誘導を行っている。目標水分量の設定・食事内容の工夫・運動の実施等を通じて、自然な排便を促すと共に、必要に応じて、医師や併設デイサービスの看護師に相談しながら適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量をチェックし一日1000cc以上を目標にしている。不足がちな方には好みの飲みものを細目に提供し水分摂取に取り組んでいる。できるだけ体を動かす機会をつくっている。往診時に主治医に相談し指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本の入浴日はあるがその方の状況に応じ柔軟に入浴できるようにしている。	入居者の希望や体調を考慮し、適切な入浴機会の確保を行っていると共に、清拭・部分浴・シャワー浴を行っており、入居者の清潔保持に努めている。浴室は、大きな窓が設置されており、開放的な造りとなっており、入居者の楽しみの場となるよう配慮している。また、併設デイサービスの機械浴槽などを使用する事も可能で、身体状況に応じた入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望により居室で過ごされたり、リビングで過ごされたりしている。本人の意向、状況に応じ休息の時間を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に体調を報告し定期薬、臨時薬の処方を受け管理している。個々の薬情をファイルし職員がいつでも閲覧できるようにしている。		

【千葉県】グループホーム たんぽぽ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな歌手のDVDを鑑賞し楽しんでいる方もいる。意向を聞きその方にあった支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ散歩に出掛けたり、買い物、美容院に行きたいとの希望があれば付き添い出会掛けている。	日頃から散歩・買物・ドライブ等を実施していると共に、定期的に外出行事を実施し、戸外での楽しみを支援している。また、外出が困難な場合にも、施設のベランダでのお茶のみ・併設デイサービスとの交流・内部行事の充実化等を通じて、様々な楽しみ事を支援している。その他にも、地域行事・グループ法人や地域の他施設との交流行事等を通じて、外部の人との楽しみの共有も図られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないと落ち着かない方に関しては家族と十分話し合い少額を所持し買い物の際支払っている方もいる。(職員付き添いの下)その他の方は管理ができない為、支払の際現金を渡し支払ってもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時はホーム事務所にてかけてもらう。手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるよう入居者とつくった作品などで装飾している。歳時に合わせた飾りをしてし時季を感じられるよう支援している。トイレがわかるよう表示している。	施設は3階建ての2・3階部分にあるが、吹き抜け・中庭・施設を周回できるベランダが設置されており、開放感を備えた造りとなっている。共有スペースには、ソファ・椅子等が設置されており、自由にくつろげる空間となっている。また、デイサービスが1階部分にあり、日頃の交流・行事・設備の利用等、連携を図りながら入居者へ楽しみ事を支援している。	

【千葉県】グループホーム たんぽぽ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いて自由に過ごせるようにしている。ベランダに出られるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を持ち込んでもらうようにしている。寝具は以前の様式を取り入れるようにしている。(畳で布団を使用していたらユニット畳を敷き布団で眠れるようにしている。)	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっていると共に、畳や布団の使用も可能となっており、入居者の生活歴に配慮した居室作りがなされている。また、呼び出しボタン・テレビ・ポータブルトイレの設置や鍵の使用が可能となっており、安心して快適に生活できるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで、廊下の幅は車いすが2台が並んでも十分な広さを取っている。手すりも設置している為、伝って歩くことができる。		